

ヨナ 書

第 一 章

「主の言葉がアミツタイの子ヨナに臨んで言った、二」立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かつて呼ばわれ。彼らの悪がわたしの前に上つてきたからである。三しかしヨナは主の前を離れてタルシシへのがれようと、立ってヨツバに下つて行った。ところがちやうど、タルシシへ行く船があつたので、船賃を払い、主の前を離れて、人々と共にタルシシへ行こうと船に乗った。

四時に、主は大風を海の上に起されたので、船が破れるほどの激しい暴風が海の上にあつた。五それで水夫たちは恐れて、めいめい自分の神を呼び求め、また船を軽くするため、その中の積み荷を海に投げ捨てた。しかし、ヨナは船の奥に下り、伏して熟睡していた。六そこで船長は来て、彼に言った、「あなたは どうして眠っているのか。起きて、あなたの神に呼ばわりなさい。神があるいは、われわれを顧みて、助けてくださるだろう」。

七やがて人々は互に言った、「この災がわれわれに臨んだのは、だれのせいかわかるために、さあ、くじを引いてみよう」。そして彼らが、くじを引いたところ、くじはヨナに当った。八そこで人々はヨナに言った、「この災が

だれのせいで、われわれに臨んだのか、われわれに告げなさい。あなたの職業は何か。あなたはどこから来たのか。あなたの国はどこか。あなたはどこの民か。九ヨナは彼らに言った、「わたしはヘブルびとです。わたしは海と陸とお造りになった天の神、主を恐れる者です」。一〇そこで人々ははなはだしく恐れて、彼に言った、「あなたはなんたる事をしてくれたのか」。人々は彼がさきに彼らに告げた事によつて、彼が主の前を離れて、のがれようとしていた事を知っていたからである。

二人々は彼に言った、「われわれのために海が静まるには、あなたをどうしたらよからうか」。それは海がますます荒れてきたからである。三ヨナは彼らに言った、「わたしを取つて海に投げ入れなさい。そうしたら海は、あなたがたのために静まるでしょう。わたしにはよくわかつています。この激しい暴風があなたがたに臨んだのは、わたしのせいです」。四しかし人々は船を陸にこぎもどそうとつとめたが、成功しなかつた。それは海が彼らに逆らつて、いよいよ荒れたからである。五そこで人々は主に呼ばわつて言った、「主よ、どうぞ、この人の生命のために、われわれを滅ぼさないうください。また罪なき血を、われわれに帰さないでください。主よ、これはみ心に從つて、なされた事だからです」。六そして彼らはヨナを取つて海に投げ入れた。すると海の荒れるのがやんだ。七そこで人々は大いに主を恐れ、犠牲を主に

ささげて、誓願を立てた。主は大いなる魚を備えて、ヨナをのませられた。ヨナは三日三夜その魚の腹の中にいた。

第二章 ヨナは魚の腹の中からその神、主に祈って、三言った、

「わたしは悩みのうちから主に呼ばわると、主はわたしに答えられた。わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、あなたはわたしの声を聞かれた。あなたはわたしを淵の中、海のまん中に投げ入れられた。大水はわたしをめぐり、あなたの波と大波は皆、わたしの土を越えて行った。わたしは言った、『わたしはあなたの前から追われてしまった、どうして再びあなたの聖なる宮を望みえようか。』」

淵はわたしを取り囲み、海草は山の根元でわたしの頭にまといついた。わたしは地に下り、地の貫の木はいつもわたしの土にあつた。しかしわが神、主よ、あなたはわが命を穴から救いあげられた。わが魂がわたしのうちに弱っているとき、

わたしは主をおぼえ、あなたに祈るに至り、あなたは聖なる宮に達した。あなたに偶像に心を寄せる者は、そのまことの忠節を捨てて、あなたに犠牲をささげ、わたしの誓いはたす。あなたは主にある。主は魚にお命じになったので、魚はヨナを陸に吐き出した。

第三章 一時に主の言葉は再びヨナに臨んで言った、「立って、あの大きな町ニネベに行き、あなたに命じる言葉をこれに伝えよ」。そこでヨナは主の言葉に従い、立って、ニネベに行った。ニネベは非常に大きな町であつて、これを行きめぐむには、三日を要するほどであつた。ヨナはその町にはいり、初め一日路を行きめぐって呼ばわり、「四十日を経たらニネベは滅びる」と言った。そこでニネベの人々は神を信じ、断食をふれ、大きい者から小さい者まで荒布を着た。

六 このうわさがニネベの王に達すると、彼はその王座から立ち上がり、朝服を脱ぎ、荒布をまとい、灰の中に座した。また王とその大臣の布告をもって、ニネベ中にふれさせて言った、「人も獣も牛も羊もみな、何を味わってはならない。物を食い、水を飲んではならない。

八人も獣も荒布をまとい、ひたすら神に呼ばわり、おのおのその悪い道およびその手にある強暴を離れよ。九あるいは神はみ心をかえ、その激しい怒りをやめて、われわれを滅ぼされないかもしれない。だれがそれを知るだろう。

一〇神は彼らのなすところ、その悪い道を離れたのを見られ、彼らの上に下そうと言われた災を思いかえして、これをおやめになった。

第四章 一ところがヨナはこれを非常に不快として、激しく怒り、主に祈って言った、「主よ、わたしがなお国におりました時、この事を申し立てではありませんか。それでこそわたしは、急いでタルシシにのがれようとしたのです。なぜなら、わたしはあなたが恵み深い神、あわれみあり、怒ることおそく、いつくしみ豊かで、災を思いかえされることを、知っていたからです。三それで主よ、どうぞ今わたしの命をとってください。わたしにとつては、生きるよりも死ぬ方がまだだからです。四主は言われた、「あなたの怒るのは、よいことであるう

か」。五そこでヨナは町から出て、町の東の方に座し、そこに自分のために一つの小屋を造り、町のなりゆきを見きわめようと、その下の日陰にすわっていた。

六時に主なる神は、ヨナを暑さの苦痛から救うために、とうごまを備えて、それを育て、ヨナの頭の上に日陰を設けた。ヨナはこのとうごまを非常に喜んだ。七ところが神は翌日の夜明けに虫を備えて、そのとうごまをかませられたので、それは枯れた。八やがて太陽が出たとき、神が暑い東風を備え、また太陽がヨナの頭を照したので、ヨナは弱りはて、死ぬことを願って言った、「生きるよりも死ぬ方がわたしにはましだ」。九しかし神はヨナに言われた、「とうごまのためにあなたの怒るのはよくない」。ヨナは言った、「わたしは怒りのあまり狂い死にそうです」。一〇主は言われた、「あなたは勞せず、育てず、一夜に生じて、一夜に滅びたこのとうごまをさえ、惜しんでい

キナの世に、キナにそむくは、サマリヤにエムセン

この世の世に、キナにそむくは、サマリヤにエムセン

ヨナ 書

ヨナは言われた、「あなたは怒りのあまり狂い死にそうです」

ヨナは言われた、「あなたは怒りのあまり狂い死にそうです」